

「知の時代」担うのは君達

理学部第一部 学部長 金元 哲夫



学生諸君が活躍する二十世紀は、「知の時代」である。価値観・正義感の混乱が深い「良心の時代」であると言われることがありま

これは、二十世紀が科

自主セミナーのすすめ

理学部第二部 学部長 新妻 弘



学生諸君には、また新たな決意で本年をどのように過ごすか考えた人も多いの

それは、一生の財産になる

薬学教育 新時代に

薬学部長 武田 健



昨年四月、新生なつた野田キャンパスに薬学部が移転し、春夏秋冬、美しい季節の移りを経て、学生・教

と繁栄を担うのは君達です。本学の初代学長、本多

光太郎先生は「今が大切」という標語を掲げられ、学

生に不断の努力をすることの大切さを説かれ続けたそ

うです。皆さん一人一人が大学時代に自分の進むべき道を見

つけ、「基礎学力を確りと身に付ける」とともに、「豊かな教養に裏打ちされ

た広い視野を身に付け」、二十一世紀を逞しく生きる

の中でも最も基本的なものを学ぶ学部ですから、その

ような方法を学ぶには最適な学部であるともいえま

す。もちろん、それぞれの学

科で勉強することにより身に付けてくるものですが、

今回皆さんにお勧めしたいのは自主セミナーです。私

も学生のころ、友人とセミナーをして、ああでもない

こうでもない議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

分でもないと議論した楽しい思い出があります。自

日に日に新たな

工学部第一部 学部長 本阿弥 眞治



最近、大学内の環境は大幅に改善されようとしています。また、このハード面の改善と並行

して、教育プログラムを改

革すべく検討が進められ、一部では具体的な計画が進

んでいます。河原地区で新五号館の工

事が始まり、学外では、技術者教育認定機構

の再構築が始まり、教育と研究の環境が大幅に改善され

ようになっています。二〇〇三年度には、六十以

上の高等教育機関で技術者教育プログラムの審査が実

施されています。そして、文部科学省による二十一

世紀の人類の平和

と繁栄を担うのは君達です。本学の初代学長、本多

光太郎先生は「今が大切」という標語を掲げられ、学

生に不断の努力をすることの大切さを説かれ続けたそ

うです。皆さん一人一人が大学時代に自分の進むべき道を見

つけ、「基礎学力を確りと身に付ける」とともに、「豊かな教養に裏打ちされ

た広い視野を身に付け」、二十一世紀を逞しく生きる

の中でも最も基本的なものを学ぶ学部ですから、その

ような方法を学ぶには最適な学部であるともいえま

す。もちろん、それぞれの学

紀COEプログラム、各省庁の大型プロジェクト助成

が実施され、さらに、各教育研究機関の外部評価審査

が進行しています。今後、神楽坂キャンパス

の再構築が本格化するに伴い、工学部の教育・研究に

は、施設の整備と同期し、今まで以上に質的向上

を目指した取り組みが強く求められています。従っ

て、我々は、社会との接点

を見据えながら、質的向上に向けた努力を重ねる中

で、今後となることなく、工学部の夢を大きく育むこ

とが必要となります。学生諸君ならびに工学部

教職員の皆さん、神楽坂地区の再構築が進む中で、特

色ある教育・研究拠点の創生に向け、工学部の夢多き

未来に挑戦しようではありませんか。

す。年明け早々ですが、開

いてください。正直いって、この実力主

義のために、進級や卒業に苦勞している諸君も多いの

ではないかと思えます。しかし、本学卒業生の社会的

評価の、いわば根拠がこの

力です。元来は、芸一座が生計を立ててゆくことを意味し

ていますが、転じて、同じ志を持つ者が心を一つにし

て物をつくり上げたり、こを成し遂げたりする意味

を成し遂げたりする意味を成し遂げたりする意味

を成し遂げたりする意味を成し遂げたりする意味

実体的なものを育む

経営学部長 井上 洋



新たな抱負をもって、新年を迎えられたことと思

います。経済の不透明性、社会の

様々な問題、そして国際社

会に目を転じて考えさせられることの多いこの頃で

す。まさに現代は病める世

の中に、二座建立の精神を養う

に使われています。学生諸君の多くは技術者

を志し、その目標に向かって邁進していることによ

う。技術者の仕事はものづくりですが、製品開発、シ

ステム作り、あるいはプロジェットの推進にせよ、今

日のように大規模化が進み、携わる人間の数が増えるに

つれ、集団の中の個の存在が相対的に小さくなり、

希薄になっているのではありませんかと思えてなりま

す。そのような中で重要となるのが一座建立の精神で

す。ただこれは一朝一夕に身に付くものではなく、課

外活動などの集団生活がこの精神を涵養する格好の場

となるように思えます。最近、技術にまつわる事

故あるいは失敗が次々と露呈し、技術立国日本が危う

い状態にあるといわれています。ほころびの原因はい

と実行により、その人の生き方が変わるとともに、目

標が定まります。自分の身の回りに目を向けたとき

そこには必ず自分に影響を与えてくれる人、感動を与

えてくれるものがあるはず

です。様々な機会を自ら捕えて、この一年、自分の内

に実体的なものを育んで欲しいと思います。そして、

それらの積み重ねにより、どのような環境のなかであ

っても、自分の信念に基づいて人生設計ができること

を願っています。

習いにきています。M-I-Tには医学部が無い

点で本学に似ています。生命科学の研究が盛んです。

生命科学の壁を越えた多くの共同研究が進行していること

を見聞します。先日、新しい蛍光色素が細胞のシ

グナル伝達の研究に用いられた共同研究のことを聞き

ました。M-I-Tの研究の活力は、このような共同研究

から生まれていることは確かです。このような環境を

本学に整備するお役にたて

たらと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

たと思っています。

1 学術交流協定

海外の大学との学術交流は、七月二十一日フカレスト工科大学(ルーマニア、八月一日チェンマイ大学(タイ)、八月八日新疆大学(中国)の三大学との間で学術交流協定が締結され、現在バドヴァ大学(イタリア)及びパリ第一(パンテオン・ソルボンヌ)大学経営管理研究所(フランス)の二大学との間で協定文書の署名を取り交わす作業に入っている。この結果、本学が学術交流協定を取り交わしている海外の大学等は、計十一大学となる。また、十月一日にはストラスブル第一(ルイ・パスツール)大学との学術交流協定をさらに五年間延長する覚書を取り交わしている。

2 学生の国際交流

学生の国際交流については、本年度は新たな取り組みが見られた。

◆日仏共同博士課程

日仏共同博士課程は、平成十四年九月に設立された。日・仏両国の大学がそれぞれ国内でコンソーシアムを結成し、このコンソーシアムに所属する日・仏大学の研究室間での共同研究をベースに、博士後期課程の学生を相互に一年間留学させ、学位取得のための指導を行う制度である。

◆交換留学

文部科学省が実施する平成十五年度最先端分野学生交流推進制度に本学からの申請が採択され、理工学研究科建築学専攻・渡辺研究員が、理工学研究科建築学専攻・若藤健司氏が平成十五年九月から十一月に、また理工学研究科電気工学専攻・赤池研究室の修士二年・松嶋和之氏が平成十五年十二月より平成十六年二月にかけて理工学研究科電気工学専攻・半谷研究室で、それぞれ三箇月にわたり研究している。

◆短期英語研修

平成十五年度のオレゴン・サマープログラムには、山口東京理科大学の学生を含む合計四十七人の学生が参加した。

平成15年は、本学の国際交流の取り組みが大きな発展した年であった。その要なものを紹介する。

多彩に進展03国際交流

協定校は11大学に 日仏共同博士課程も

スシが好き、楽しい異文化体験

独ガイスマル専門大学からの留学生

工学研究科電気工学専攻赤池浜本研究室

Steflen Abbenstein



研究室で学友と、手前中央が筆者

私は、日本はドイツと完全に異文化だと聞いていた。日本人はとても親切で、礼儀正し。そして、日本はとても狭く緑がなく、どこもかしこも人で混み合っていると感じていた。もちろん、食べ物も全く異なるものだ。

これらのギャップのいくつかは、昨年度Winda大学に短期滞在した赤池教授と最初の交換留学生の田嶋君と接した際にすでに埋まっていたのだが、その後、私自身が日本に来るチャンスを得た。日本の国と文化に興味があり、耳にできた事が本当かどうか確かめたかった私は、このチャンスをとって喜んだ。ま

た、自分の研究分野においては、日本の優れた国際論文が多く見られた。だから、その質の高い研究を見てみたかった。

こんな期待を持ち、私は平成十五年十月二日から約三カ月、日本に滞在することになった。初日に、とても暖かい歓迎と助けがあった。日本人が親切であるという事は、全くもって事実であった。また、ドイツ人と同様に、日本の教授、学生、多くの人々はとても真面目で前向きであり、ま

り、国際交流も盛んである。また、卒業生からはタイ政府の関係を輩出している。

◆新設大学 一九六〇年に設立、中国西部新疆ウイグル自治区の総合大学。教員数約千二百人、学生数約二万人。理工学系学部から文系学部まで十四学部。同自治区唯一の大学。副学長は、有名なタンテが学んでいる。カリレオが使用した教壇が残され、世界最古の天文学文がある。教員数約二千

オレゴン院生セミナー 2週間

理工学研究科電気工学専攻 杉尾 信行



スピーキング&リスニングのキャサリン先生と。後列左から二人目が筆者

時間を過ごした。また、Presentationの時間を五十分のプレゼンを行い、撮影した各自のビデオを後日観て、改善点をフィードバックするというこの授業のお陰で、人前に出ても以前程緊張することは無くなった。その時、先生は「一回目のオレゴンサマープログラムの参加者も六人だったよ」とおっしゃった。その話を思い出しながら、今後このセミナーも広く皆に支持されるようになってほしいと願ってやまない。

スピーキング&リスニングのキャサリン先生と。後列左から二人目が筆者

私は、昨春「大学院生のためのオレゴン・プレゼンテーションセミナー」に参加した。そのセミナーは、八月二十四日から九月六日まで二週間、アメリカ・オレゴン州のポートランド州立大学に「夏期短期留学」して、アメリカの文化や自然を体験・見聞しながら、英語での発表技術を磨くものである。参加者は、私を含め六人。限られた時間の中で、私は授業や放課後の観光、ホームステイなどを満喫出来た。

3 特色ある大学教育 支援プログラム

平成十五年九月、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(COL)に、本学が加盟する日本マレーシア高等教育大学連合十三大学が共同で申請した「ツィニングによる国際化大学の積極的取組」が採択された。

以上のように、本学の国際交流活動は着実に活性化している。しかし新たな展開を図るには手薄な面もあり、全学的な支援が必要となるであろう。

4 学内組織一元化

本学にはこれまで外国人留学生委員会、国際交流委員会、東京理科大学と外国大学等との学術交流委員会、オレゴンサマープログラムの四つの国際交流関係委員会があったが、平成十五年四月、東京理科大学学長宛に「本学の国際交流活動は着実に活性化している。しかし新たな展開を図るには手薄な面もあり、全学的な支援が必要となるであろう。」

ローズガーデンに行ったりと毎日大忙しであった。また、皆でユーギャンさんから韓国語を学んで楽しんだ。ホームステイでは、毎晩ホストファミリーとの会話が盛り上がり、楽しくて仕方なかった。ホストファミリーは、アメリカ人家族の二人の息子がいる家庭。一緒に生活したかった。

私は、昨春「大学院生のためのオレゴン・プレゼンテーションセミナー」に参加した。そのセミナーは、八月二十四日から九月六日まで二週間、アメリカ・オレゴン州のポートランド州立大学に「夏期短期留学」して、アメリカの文化や自然を体験・見聞しながら、英語での発表技術を磨くものである。参加者は、私を含め六人。限られた時間の中で、私は授業や放課後の観光、ホームステイなどを満喫出来た。

「父母会」設立へ準備着々

父母会設立に向けて全学
部学生のご父母にアンケート調査が実施され、多数の
ご父母から、役員または支
部の活動にご協力いただけ
るご回答をいただいた。
この結果を受けて昨年十一
月二十二日、二十三日、二
十四日、二十九日に全国十

十二月二十日(土)には第
一回父母会設立準備協議会
が開催され全国の世話人の
進行している。

「承認TLO」記念講演会

馬場錬成氏「知財」を展望

科学技術交流センターが
省及び経済産業省両省より
昨年九月三十日に文部科学
、大学等技術移転促進法に



「承認TLO」
記念講演会
を主催した。
冒頭、塚本
理事長より今
後の知財の重
要性や本学の
将来像に関す
る挨拶があり、文部科学省
研究環境・産業連携課 小
山技術移転推進室長、経済
産業省 橋本大学連携推進
課長より祝辞を頂いた。続
いて科学ジャーナリスト
承認TLOになったことに
より、政府の掲げる「知的
財産立国実現」のための推
進役として本学も 教育・
研究に次ぐ第三の使命とし
ての社会貢献を果たすた
め、大学で創出される特許
や研究成果を積極的に技術
移転することが可能にな
り、同センターに対する期
待は益々高まっている。

随筆



マエストロの工房で、自作のヴァイオリンを手に五嶋芳徳さん

一つは六十歳の定年まで体
をすり減らして働き、その
後は何も出来ないで人生を
終えるより、五十歳前後に
退職して残りの人生を自分
のしたいことをして送りた
いと思っていたからです。
ヴァイオリン製作家にな
ると思った理由は、その
音に魅せられたからです。
理科大時代は混声合唱団に
所属し、クラシック音楽を
よく聴くようになりまし
た。中でもヴァイオリン音
楽に一番魅力を感じます。
ヴァイオリンは表現力が豊
かで、人間の微妙な感情を
見事に表現できます。まさ



ストラディバリが住んでいた家があるガリバルディ通り。ヴァイオリン学校もこの先にあり、4年間自転車を通った道

第二の人生はクレモナで

ヴァイオリン製作修業 五嶋 芳徳



クレモナ、イタリア

中世の佇まいが残る北イ
タリアの大都市クレモナ。
十七、八世紀にストラディ
バリ、ガルネリなど多くの
ヴァイオリン製作家が活
躍した街で、私はヴァイオ
リン製作を学んでいます。
なぜ、長い間勤めた会社
を辞めて、ヴァイオリン製

「五嶋芳徳氏略歴」(こと
う・よしのり) 一九四八年一
月生まれ、香川県出身。七二
年理理学部物理学卒業。七三
年七月富士ゼロックス(株)入
社、複写機などに使用される
電子機器の生産技術、開発を
担当。九九年富士ゼロックス
を退職し、九月にクレモナに
九三七年創立、バイオリン製
作者の登竜門。学生数約百
人、日本人留学生が年々増え
る国立国際ヴァイオリン製
作学校に入学。〇三年七月同
校を卒業。現在、卒業後の研
究を〇四年三月までマエスト
ロの工房で受けている。

の厚さ、木の削り方、ニス
の材料や塗り方などいろいろ
考えながら作ります。そ
して、それらが音にどう影
響するか、それを確認する
のも楽しみの一つです。
というのは、ストラディ
バリなどの名器の音の良さ
がまだ解明されていないか
らです。これまでに多くの
製作家や科学者が、名器の
音の秘密を解明しようと試
みましたが誰も成功しな
く、材料選りから始まり、
板板裏板の隆起の形、板

自分なりに音に関係する
と思うところを考えて作りま
す。今六台目を製作中だ
が、五台目のヴァイオリン
は隆起の削りの深さを少し
変えて作りました。その結
果、良く響く楽器ができま
した。隆起のない平面のヴ
ァイオリンが最も強く響く
ということがヒントになっ
たのです。本当にこの隆起
の削りを変えることによる
のかどうかは、何台か作っ
て確認する必要があります。
他、何の要因でそうなった
のかかもしれないからです。
ヴァイオリン作りには多
くの工程があり、材料の木
は、作るたびに違っており
二つと同じものはありませ



藤本 博さん

65歳、新たな旅立ちを称う

藤本博君のこと

突然大宮駅のホームで脳幹
梗塞で倒れた。別名「納棺
高速」といわれるほどの重
病で、一命は取りとめたも
の片耳はほとんど聞こえ
ず字もまともに書けず、も
はや人生これまでかという
状態であった。

一命を取りとめ、ショッ
クから立ち直ると、同じ命
を落とすなら自分の若いこ
ろの夢に立ち返って、物理
学をやりたいと希望し、物
理は卒業後現役教員として働
けるかという疑問もあった
が、尾立先生の励ましもあ
り、輪講は私(筆者)と
一対一で、
Einsteinの
特殊相対論と
一般相対論を
読んだ。さら
にいま修士
論文に基づき、高校物理教
科書を制約なしに私と共同
して執筆中だ。藤本君は物
理学史を担当してほとんど
完成している。いずれ理数
にも明るい元気を与えてく
れるものと思い紹介した。

津田 惟雄

箱根を走った! 駅伝予選会 報告

陸上競技部主将 竹村 朗 (理工・物理2年)



箱根駅伝予選会の本学メンバーと応援団。中列右から二番目が竹村君

新春の幕明けを飾る恒例
の大学対抗箱根駅伝の予選
会が、昨年十月十八日(土)
に行われ、われわれ陸上競
技部からも十人が参加して
健闘した。
今回は第八十回の記念大
会ということで、従来は立
川市の昭和記念公園で行わ
れていた予選会も箱根町で開
催された。予選会では各校十
五十二人の出場選手が一斉
にスタートし、上位十人の
合計タイムで一位、九位が

本大会出場権を獲得する。
今回、理工大のメンバー
は十一人エントリーしたが、
一昨年の予選会二十三位
(近年では最高順位)の原
動力だった先輩二人が抜け
て、エントリー時の持ちタ
イムは決して早くはなかつ
た(三十七校中三十三位)。
コースは事前に見に行
った。距離は十六・三キ
ロ。平坦な道はほとんど無
い。酷な道のりだ。普段から
入念な訓練が必要なのだ

悼

望月 定教授
基礎工学部教養 平成十
五年十一月十一日逝去され
ました。六十九歳。

師である。

話はこれからである。卒
業後教員試験をあちこちで
受けたのである。世の中は
広い。ある埼玉の中高一貫
校が藤本君の姿勢、実績を
見て採用してくれたのであ
る。別に教員が私底してい
るわけではない。若い人を
採りたいはいくらでもい
る。それをあえて採用して
くれる校長も校長なら、六
十五歳でなおかつ人生まだ
終わらずと立ち向かった藤
本君もたいしたものだ。

この話は本学の若い学生
にも、年取った教員、職員
にも明るい元気を与えてく
れるものと思い紹介した。

山口東京理科大学
News

〒756-0884
山口県小野田市大学通一―一―一
0836・88・3500(代表)
<http://www.yama.tus.ac.jp/>

建学の精神を生かした
手作り教育

年頭の言葉
学長 土谷 敏雄



入学した学生は変わっていく、良くも悪くもなる学生は本人次第といつて片付けたくない。それは本人の責任ではなく、大学教育の「質の保証」としての責任であるという考えが浸透してきつつある。根底には、全人格的な教育理念、一人一人の個性を大切にしたい少数教育の遵守と大学は学

にし、創造的思考力の育成をはかり、感性を豊かにし、試験に耐え抜く不屈の意志の力、仕事をやり抜ける健康、価値観を鍛えていくことが大切と思われる。

価値観は、人間尊重、個の自立性、人類の福祉への貢献が核となる。さらに、自国文化の長所を理解し、他国の文化に建設的に接

けることが重要だろう。私の好きな言葉と指針・マーチン・トロウが唱えた次世代の大学形態として個々の大学の規模や歴史は言うに及ばず、専門性・大学の立地・学生の質など、あらゆる要素を加味し、自らの大学の歩むべき進路を決定する。一等人身の自画像・大学はそこに学ぶ学生

けることが重要だろう。
私の好きな言葉と指針..

学内ベンチャー企業「ナノオプト研」設立で記者会見
する小林駿介教授（正面中央）

学内初のベンチャー企業
ナノオプト研究所 設立

山口東京理科大学初となる表取締役社長・藤田剛一氏が昨年十二月一日（月）付けで学内に設立さ

れ 本学大会議室で記者会見が行われた。当日は、藤田剛二氏より代表取締役社長就任の挨拶があった後、小林駿介教授、戸嶋直樹教授から研究内容の発表があった。

(有)ナオプト研究所は、

企業研究セミナー 開く

企業研究セミナー 開く

東京理科大学理窓企業人会との共催で「職業教育」の一環として企業研究セミナーが、昨年十二月十三日（土）に開催された。

当日は本学または東京理科大学からの採用実績のある日本化薬(株)など企業七社が参加した。学生達は熱心にもメモを取った後、企業ブースを回り、企業の調査・研究に励んでいた。

記録など大活躍
トリフティング部



前列左
後列左



から清水君、
から平野君、
大塚君、
末吉君

60 kg級で物質・環境工学科二年生の平野友宏君が一位、67・5 kg級で電子・情報工学科二年生の大塚浩太君が三位に入賞した。

十二月七日(日)に阪南大学で開催された関西学生秋季大会で

大会新記録など大活躍
パワーリフティング部



前列左から平野君、大塚君、
後列左から清水君、末吉君

二〇〇三年度山口県パワ
トリフティング大会が、昨
年十一月九日(日)に防府市
で開催され、本学選手が上
位入賞を果たした。

パワトリフティングは、
三種類(スクワット、ベン
チプレス、デッドリフト)
のトータルの重量を競うマ
スポーツで、56kg級では、物
質・環境工学科一年生の末
吉礼治君が、67・5kg級で

が六位の好成績を収めた。本学のパワーリフティン
グ部は昨年度発足したばかりの新しいサークルで、部
員は二十人。さらなる飛躍
が期待できる。

諏訪東京理科大学
News

〒391-0292
長野県茅野市豊平五〇〇一
0266・73・1201（代表）
<http://www.suwa.tus.ac.jp/>

今年は御柱祭りの年

年頭の言葉
学長 重倉 祐光



皆さん、あけましておめでとございます。

本年は、諏訪地方の人たちがこぞって参加する御柱祭りに当たっています。早くも、昨年の春頃からこの神木の選定の神事が行われ、地域は活気に脈づっています。諏訪大社上社、下社に各八本ずつ、直径約一メートル、高さが六十メートル、樹齢は、まさに全精力を傾けなければならぬ祭りです。

上社の御柱の「木落」としては、四月二日から四日までは、茅野駅手前の急坂で行われますので、通常は三日と決まっています。本学の入学式も、今年は六日に延期します。七年に一度といいますが、「え」と言えば寅年は、毎年向上しているように

ぼるものでしょう。巨木への信仰は全国共通だったのでしょうが、なぜ、この地域にだけこのような熱狂的な行事が残されているのか不思議な感じがします。

ともあれ、御柱祭りとともに本学にも第三回生が入学してきます。入学生の実環境フォーラム、経営者ゼミナール、共同で公開セミナーや、研究交流委員会の関連では、昨年七月に諏訪地域全域の大きな影響を与えています。

出る出前授業もこれまでに六十件を越え、他大学にも大

そうこの組織を固め、共同研究・特許出願・新規企業に思えます。学生諸君のクラブ活動も活況を帯びつつあります。夕刻には運動部員の掛け声や、かすかなト考えています。

'03 諏訪圏工業メッセ盛況

本学も精力的に発表・展示



にぎわうメッセ会場＝本学ブースで

本年も精力的に発表・展示

第2回環境フォーラム開く

昨年十一月五日(水)、本
地域コンソーシアム推進
議会の主催による第二回
境フォーラムが本学特大
演し、本学学生や一般市民
ら約四百人が聴講した。
鎌田氏は、地域の環境は
人の健康と密接に繋がって

教室で開催された。今回は、諏訪中央病院保健医療福祉管理者である鎌田實氏（「命と環境」と題して講

学生企画で初の合同ライブ



が参加。ロッ
ク、JAZZ
等様々なジャ
ズ・演奏が
行われた。写
真。さらに、
本学の前身東
京理科大学諏
訪短期大学の
卒業生で昨年
一月にインデ
イズ・デビュ
ーを果たした
「タイムラプ
ト」もスペシャ
ル出演した。

昨年十一月三十日、本学学生有志による初の合同音楽祭「M.F.T.S (Music Festival in Tokyo university of Science Suwa)」が本学小アリーナで行われた。学生バンド「臥龍」のメンバーが中心になって企画したもので、学内外のバンド九グループ	ゲストとして参加。近々発売予定のセカンドミニアルバム「の収録曲を披露し、在学生へメッセージを贈った。当日はあぐにの雨にもかかわらず、約四百十人の来場者があつた。ライブは六時間以上続き、会場は寒さを吹き飛ばす熱気に包まれた。
---	--

安田学園剣道部員たち



校舎に気合いと竹刀のぶつかり合う音が響く。男子校の安田学園で、十一人の剣道部生徒と激しくもみあうのは、一九七二年生まれの鈴木亜紀さんである。面を外すと、教師というよりも生徒たちのお姉さんに見えた。剣道五段、スマートで小柄な彼女のどこにそんなバイタリティーがひそんでいるのか不思議だった。昨年夏の全国家庭婦人剣道大会(団体戦)で、東京代表の次鋒に選ばれた。決勝でも勝ち、チームも見事に優勝した。日本武道館で試合をした。そして真ん中の決勝の舞台に立ちたい。その夢がかなった。次の夢は国体出場。「教えるより、私が強くなりたいんです」と笑う。指導する立場ながら、真剣に部員と渡り合う。剣道は中学の部活で始めた。高校でも剣道部に。広島大で監督をしていた体育の先生に連れられ



★略歴(すずき・あき)旧姓は岡田。広島市出身。1995年理工学部工業化学科卒。3年間、東京の私立高校に就職し、やめて98年から東京理科大学の理学研究科数理教育専攻で2年間学ぶ。同時に私立安田学園中学・高校非常勤講師となり、現在に至る。

理大

男子高の剣道部監督
5段…もっと強く!

鈴木 亜紀さん

て、大学の道場へ通って大学生相手に練習し、合宿にも参加した。稽古は厳しくて泣いた。だがそれは先輩に負けての悔し涙だった。負けず嫌いなのだ。高校の時は、国体の広島代表の最終選考で落ちた。理科大のコーチに「強くなりたい」といったら、「理科大でそんなことをするのはお前だけだ」とあきれられたが、素晴らしい先生方にめぐり合い、女子学生の全国大会に出場することができた。剣道は力だけではない。体の小さな七十歳過ぎの師範の先生に、思い切りぶつかって行き、「突きをとられて、ふっ飛ばされた。相手に触ることさえできない。あの人は妖怪か」と思うその境地へ、たゆまぬ努力を続ける。いつか夢がつかめると信じて。高校で化学、中学で理科を教える。顕微鏡を覗くのが好きな少女だった。中学一年の時、理科の先生がマグネシウムを燃やして見せてくれた。光は赤いか青いものか思っていたら、真っ白い光だったのに驚き、感動した。化学も剣道も、鈴木さんの原点は中学・高校にあった。 「自分が教えてもらったことを伝えたい」——笑って化学を語る時も、鈴木さんはお姉さんの表情だった。(K)

特集

03 理大祭

キャンパスだより

野田



大いに盛り上がった熱演ライブ

神楽坂



曇気は上々……例年とおりにぎわう理大の目抜き通り



熱中!サイエンス夢工房

「第五十五回理大祭」が昨年十二月に開催され、各キャンパスは盛り上がる学生達と来場客の歓声に包まれた。久喜は八、九日、神楽坂は二十一日から四日間、野田は二十二日から三日間の開催。屋台や研究発表、バンドライブなど多彩な催しが行われた。本学OB・蓮池透さんの講演会は、用意した整理券がすべてなくなるほどの盛況ぶり、生で聞く蓮池さんの言葉に皆熱心に耳を傾けていた。



蓮池透さん(「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」事務局長)の講演会



久喜



お好み焼きの屋台を出した水泳部一同 怪人「赤覆面」の売りも登場



安さ(250円)で勝負!のチキンカレー屋台でポーズ



▲ 秋色のキャンパスを楽しむ人波 科学大好きの子らもつめかける



理大祭の最後を締めくくる キャンプファイヤー



父母懇談会で研究発表をする 藤裕太君(2年)